



施設紹介〈第1回〉

医療法人社団康人会 適寿リハビリテーション病院

〒653-0876 神戸市長田区花山町2丁目11番32号
 電話 078-612-5533 FAX 078-612-5535
 URL: <http://koujinkai.webmedipr.jp/>

適寿リハビリテーション病院は神戸市の旧市街地・長田区
 の山腹に位置し、昭和63年、理学診療科・内科・適寿病院(土
 地の提供者、故・公文適、久寿雄の名前から名付けた)として
 開設し、2年間の実績を経て平成3年、医療法人社団 康人
 会「適寿リハビリテーション病院」として組織替えしたものである。

病院は地上3階建てで2883.9㎡を有し、全景は病院らしくない
 建造物であることが特徴である。公文 康理事長の理念で
 ある生活重視を基に①病院らしくない建物、②階段の段幅を
 広く、段差を少なくする、③ダイニングルーム、サンルームの
 設置を挙げ、他は必要部署名と面積を提示しただけで、住宅
 建築では高名な東京工大名誉教授・篠原一男氏に設計を依
 頼した。

出来上がった建物は
 玄関前に大きな池のある、正に病
 院とは思えない建物で、
 1993年には神戸市制



施設内にある日本庭園の池

100年記念事業の「神戸建築百選'93」に選ばれた。又、園
 芸療法が採用されており、病院の庭園には四季毎に花が咲
 いている。

標榜科はリハビリテーション科、内科、アレルギー科、小児
 科であり病床数は110床(一般病床64、回復期リハビリテー
 ション病床46)で施設基準は総合リハビリテーション施設(B)
 を取得している。

平成16年度の入院状況は、平均入院期間として、一般病
 棟52.7日間、回復期リハビリテーション病棟が100.3日間であ
 り、当院の最大の目標である在宅復帰率については、一般
 病棟60.3%、回復期リハビリテーション病棟では67.6%にな
 っており、入院後のリハビリテーション開始日は、1年間の平均
 で1.2日後に訓練を実施している。

リハビリテーション医学、医療の教育に関しては院長が大阪
 医科大学診療教育教授であり大阪医科大学医学生の卒前教
 育と、日本リハビリテーション医学会認定研修施設を取得し、西
 神戸医療センターからの研修医の卒後教育にも携わっている。

スタッフは常勤医師6名で、そのうち日本リハビリテーション

医学会指導責任者1名、リハビリテーション科専門医1名が
 常勤医師として勤務し、非常勤医師は14名で、日本リハビリ
 テーション医学会指導責任者2名のほか精神科医、耳鼻咽
 喉科医、歯科医、整形外科医、循環器内科医等が診療に
 携わっておりリハビリテーション病院に入院してくる患者様の
 精神障害、嚥下障害、歯科的問題、骨・関節疾患、循環器
 疾患にきめ細かく対応している。

他に理学療法士13名、作業療法士15名、言語聴覚士5名、
 医療ソーシャルワーカー3名、園芸療法士1名、歯科衛生士
 1名、保健師1名、看護師は3:1とリハビリテーション医療に
 必要な数多くのマンパワーを揃えており、生活重視を前面
 に打ち出すため白衣やナースキャップを装着せずに診療を
 行っている。

入院患者様については全例Barthel Indexを用いてADL
 能力を評価し、又、小橋院長らの考案によるQUIK-Rも定
 期的に測定し、「QOL」の向上を目指している。そして月に
 1回は多職種参加型のリハビリテーションカンファレンスを実
 施し、各症例ごとに適切な目標を設定している。目標が家庭
 での生活に設定されれば、早期に退院前に家屋評価を実
 施し環境整備に着手している。また退院後の在宅生活を継
 続させる体制として、訪問診療、訪問看護、訪問介護、訪問
 リハを充実させ患者様の家庭生活を支え続けている。在宅
 終末期医療にもリハビリテーション医療の特徴であるチーム
 医療体制を整えつつある。

病院職員に対する卒後研修も多職種参加型の形態をと
 っており、医師と看護師のみならず、全職種が参加する研究
 発表会を病院主催で1回/年開催しており医療の適正化、
 質の向上、効率化に励んでいる。当院では開設当初より入
 院患者及び介護者等の「QOL」の向上を最重要課題とし、
 院長・小橋紀之らの開発したQOL測定スケール・QUIKを
 用いた研究
 が続けられて
 おり、数多く
 の業績が日
 本リハビリテ
 ーション医学
 会にも公表さ
 れている。



(事務部長 東 泰男)

園芸療法に使われているガーデン